



【一宮館主賞】

あんど う ひでふさ
安藤 英房

大体、ひどいじゃないですか。

何から何までしてくれたのに。

何一つ親孝行や恩返しもさせない内に、私を置いてけぼりにして天国へ逃げるとは食い逃げという言葉が世間にはあるけど、これではまるで食わせ逃げだよ。

それまでは、身の程知らずと恥知らずの二冠王で、辛うじて踏みとどまっていたのに。あなたの食わせ逃げで、恩知らずが加わって今や私は、押しも押されぬ三冠王なんだよ。

母よ、あなたが天国へ行ってしまいうまで、いや、天国へ行ってしまってからも。私の人生は恥だらけ失敗だらけ。今現在も刻々、両者を量産増産し続けている。

そして数えきれぬほど落ち込んでいる。

落ち込む度に、色々な人が色々なことを言ったりして、慰め励ましてはくれるけど。

一体、どうしてかなあ？

その人達には大変悪いし申し訳ないんだが、そんな時には誰よりあなたにいてほしい。

どんな優しい慰めや気の利いた励ましより、私はただあなたにバカにしてほしい。

あの世界一私をムカつかせるニヤニヤ笑いを浮かべながら、たった一言、言ってほしい。

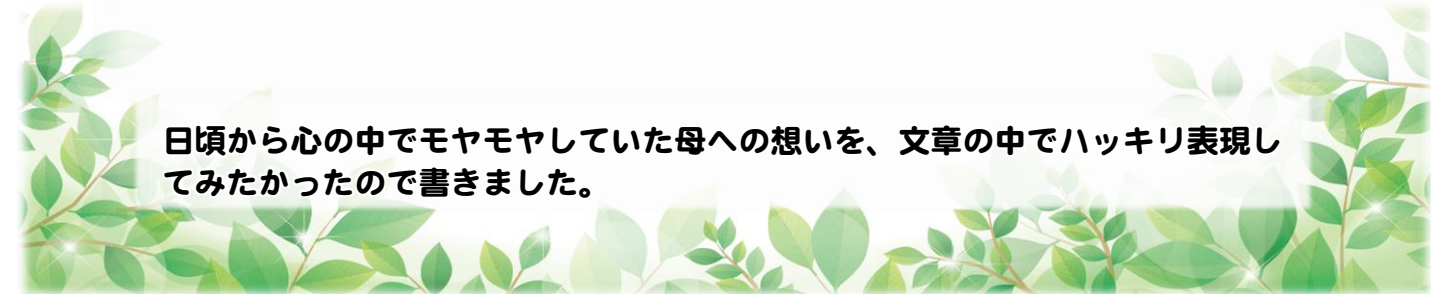
「バカだねえ」って。

その瞬間、どんな憂うつや絶望や自己嫌悪も木端微塵にフッ飛んでいくだろうに。

「こん畜生！次は見てろよ！」と、拳を振り上げ立ち直れるだろうに。

なあ母さん なあ母さん

(静岡県 / 59歳 / 男性 / 警備員)



日頃から心の中でモヤモヤしていた母への想いを、文章の中でハッキリ表現してみたかったので書きました。